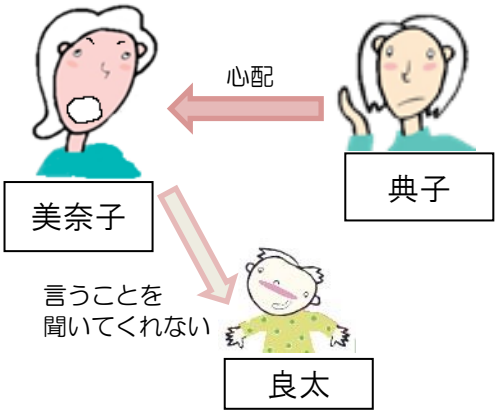
指導事例

2-7 「まもる」

子どもが言うことを聞いてくれなくて困っている母親と、その知人とのエピソードを通じて、子どものしつけに悩む親や、子どもや親をまもることついて考える。

エピソード

- 最近 3 歳の良太が言うことを聞いてくれない。
- 感情がおさえきれない。
- このままエスカレートしたら､｢虐待｣にならないか心配。
- スーパーで言うことを聞かず大きな声で泣く良太に大声でしかり、無理やり引っ張ってたたそうとする。
- どうしたらいいんだろう



- 美奈子さんがスーパーで興奮している様子だった。
- 美奈子さんの気持ちが少しでも楽になるように、どう関わっていこう

活動の流れ（70 分）

時間	活動内容
10 分	**導入 （ P2 ）** ▸ あいさつ・自己紹介 ▸ 参加型学習のルール確認 ▸ アイスブレーキング・グループ分け ▸ 教材の読み合わせ
50 分	**グループワーク （ P3～5 ）** 01 美奈子さんの気持ちを考えてみましょう。 02 典子さんの気持ちを考えてみましょう。 03 あなたは、子どもが言うことを聞かないとき、どのようにしていますか？　また、子育てに困っている親がいたら、どのようにしますか？
10 分	**ふりかえり （ P6 ）** 今日の話し合いを振り返りましょう。

導入

あいさつ 自己紹介

進行役の自己紹介をする

「みなさん、こんにちは」
「これから、「子育て」について、みんなで話しましょう」
「わたしは、・・・・・」

ルール 確　認

参加体験型学習に必要な4つのルールについて説明する

「これからの時間の中で、守ってほしいルールが４つあります」

①「参加」：講座に参加するために、自分の考えを話してもらう。話したくないことはパスもできる。

②「尊重」：人が話しているときはしっかり聞く。自分の考えと違っていても話をさえぎらず最後まで聞く。

③「守秘」：この場で聞いたことはこの場限り。他でもらさない。ワークが進むと自分の生い立ちや家庭状況を話す人もいる。安心して話してもらうため、この場での話は絶対に外にもらさないことを約束する。

④「時間」：一人あたりの発言時間を守る。参加者全員に話してもらうために、制限時間内に話を納めるようお願いする。

グループ 分　け

グループをつくる

「5～６人のグループをつくりましょう」

・アイスブレーキングをしながら、グループ分けをする。
・各グループは、老若男女さまざまな人が入るようにする。
・机やいすを動かしグループごとの“島”をつくる。
・一つのグループにできるだけ一人のファシリテーターが入る。

場面設定等 を読む

登場人物の説明、場面設定を読みあげる

「それでは今日の資料を配ります。はじめにエピソードを読んでみましょう。

「グループに分かれ、役割分担してこのエピソードを読みあげてみましょう。」

・まず、一人ひとりで黙読をしてから読み合わせるのもよい。
・朗読はグループごとでしてもよいし、進行役が全体の場で読み合わせても構いません。

グループワーク

01 美奈子さんの気持ちを考えてみましょう。

リーダー

　エピソードを読んでどのように感じられましたか？似たような経験をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんね。
　さて、美奈子さんの気持ちを考えてみましょう。どのように思っているでしょうね。いろいろ話し合ってみてください。

予想される意見

気持ちがよくわかる、私も同じ

「私も、いつもこんな感じ。こんなとき、どうしようって思うよね。」

「自分の日常を見ているみたい。大きな声で怒るか、無理やりするしかないって思っているでしょうね。」

「周りの人がチラチラ見ているのっていやよね。見られていると、よけいにどうしようって思う。」

もっとひどくしてしまうことがありそう

「しかっても言うことを聞かなかったら、もっと言うしかない。」

「周りで人が見ているから、何とかしないといけないと思って、よけいにきつくなってしまう。」

「言っても聞かないんだったら、たたいてでも無理やりさせるしかない。」

していることは、行き過ぎだと思う

「言うことを聞かないからって、怒鳴ったり、引っ張ったりするのはやりすぎかなって、後悔しているかな。」

「落ち着いて、ゆっくり話せばよかったかな。」

「あまりやりすぎたら、虐待になってしまうんじゃないかと心配しているかな。」

話し合いでの留意点！

① 話し合いの導入として、美奈子さんの立場、気持ちになって考えてみます。参加者にイメージしてもらうために少し時間を置くのもいいかもしれません。

② 子どもが言うことを聞かないときに、自分の子どもに対して、強く言う場面は大なり小なり誰もが経験していることだと思います。そのため、場面の状況をイメージしやすいものの、子どものしつけへの意識の違いから、美奈子さんの対応についての意見は分かれることも予想されます。「美奈子さんと同様である」「手を出してでも言うことを聞かせる必要がある」「手を出すのはいけない」「手を出すのはいけないと思うけれど、そうせざるを得ないこともある」等が予想されます。どの意見も受け止めながら、話し合いを発展させることで、大切にしたいことへの気づきに近づきます。

③ 「虐待」という言葉が気になる方、虐待としつけの違いについては、7～8ページをご覧ください。

グループワーク
02 典子さんの気持ちを考えてみましょう。

45
30

リーダー

子どものことで、不安や悩みを感じたりすることは誰にでもあることですよね。
そんな知人の様子を見て、典子さんはどんな思いだったでしょうか？想像してみましょう。

予想される意見

何と声をかけたらいいのかわからない

「声をかけるって難しい。アドバイスのつもりで言っても、美奈子さんにしたら言われたこと自体がプレッシャーになると思う。」

「美奈子さんと典子さんの関係にもよるかな。何でも言える仲なら、気づいたことを言えるけど、そうでなければ、何も言えない。」

「何かしないと、美奈子さんは苦しそう。でも、人にあれこれ言われるのは嫌だろうし、何をしたらいいのかわからない。」

自分の話ならできる

「自分の子どもとの話をすれば、それがヒントになるかな。」

「美奈子さんがしていることと、違うことをアドバイスしたら、否定されたと思われるかもしれない。自分がこうしたとか、困っていることを言うならできるかな。」

とにかく、聞くしかない

「とにかく、聞くことしかできないかな。」

「美奈子さんは、思っていることを言えたら、すっきりできるかな。」

「一人で抱えているとしんどいだろうから、話してほしいな。」

アドバイスしよう

「落ち着くために、深呼吸すればいいのでは？」

「出かける前に、お菓子を買わないなど、子どもが言うことを聞かない場面を想定して、予め約束しておくといいよ。」

「子育てで、協力してくれる人に相談すればいいんじゃないかな。」

「言うことを聞かないときは、無理やりでもやらせればいいのよ。」

話し合いでの留意点！

① 典子さんの気持ちについて、いろいろな視点で意見がでると思います。典子さんと同じように、身近に悩みを抱えている知人がいるかもしれません。誰もが安心して発言できるよう心がけましょう。

② 意見に偏りがある場合は、違った意見を紹介することで、話し合いが深まります。

③ 「この教材のテーマは『まもる』です。誰を『まもる』のでしょう。」という問いかけで、「子どもを守るためには…」「親を守るためには…」「親を守ることで、子どもも守られるのでは…」 など、より話し合いが深まります。

ありがとうございました。いろいろなアプローチがありますね。みなさん、美奈子さんの気持ちを踏まえて考えていますね。

グループワーク
03 あなたは、子どもが言うことを聞かないとき、どのようにしていますか？また、子育てに困っている親がいたら、どのようにしますか？

リーダー

次に、自分自身について考えみたいと思います。子育てをしていると、子どもが言うことを聞かない場面があると思います。そのとき、どのようにしていますか？うまくいく方法だけでなく、迷いながらしていること、自信がないことも話してくださいね。

また、まわりに子育てに困っている親がいたらどうしていますか？もしくは、どうしようと思いますか？

予想される意見

子どもが言うことを聞かないとき

「美奈子さんと同じように、大きな声で叱っている。」

「言っても聞かなかったら、無理やりさせることもあるよ。」

「落ち着いて、さとすようにしている。」

「言っても聞かなくって困っているの。どうしたらいいかな。」

「出かけるときは、前もってやってほしいこと、してはいけないことを伝えておくと、お店では言うことを聞いたよ。」

困っている親がいたら

「とにかく話を聞いて、相手が落ち着いたらいいなと思う。」

「人の子育ての方針には意見しにくいから、自分の経験を話すかな。」

「知っている方法が使えそうなら、それを伝えるかな。」

「自分の子育てを批判されているって思ったらいやだから、何か言うのは難しいな。どうしたらいいのかな。」

話し合いでの留意点！

① 子どもが言うことを聞かないときの対応では、いろいろな意見が出てくると思います。どの意見も受け止めながら、話し合いを発展させることで、自分の子育てで大切にしたいことを考えたり、気づきにつながったりします。

② 親が子に暴力をふるうことは許されませんが、思わず子どもをたたいてしまったという経験は、ワークの中で参加者から話されることも想定されます。親学習では、ファシリテーターがそのような親に対して直接注意や指導を行うことが目的ではなく、話し合いの中で親が自ら気づくことをめざしますが、程度が重篤であったり、福祉的な支援を要すると判断されたりする親に対しては、親学習によるサポートだけでは限界があります。

話し合いの中で、家庭内での暴力や虐待が疑われるケースがあれば、教材に記載の「子育ての相談窓口」等の専門機関につなぐことが必要です。

ふりかえり

今日の話し合いをふりかえりましょう。

リーダー

ありがとうございました。
最後にみなさんの想いを共有しましょう。
一人ずつ順番に、今日の感想をお願いします。

予想される意見

「みんな、子どもが言うこと聞かなくて困る時があるのだなと思いました。」

「子どもの叱り方が、いろいろあるのだと思った。」

「ほかの人の叱り方を知ったので、自分もやってみようと思いました。」

「落ち着いて子どもをさとすことは大事だけど、難しいと思いました。」

「親の気持ちが楽になったら、強くしかることが減ると思った。そのためにも、今日のような話し合いは、いい時間になりました。」

「いろいろと改めて考えることができました。自分の子育てが間違っていないとわかってよかった。」

「いらいらしすぎると、虐待につながりそうな叱り方になってしまうのだとわかった。」

「子どもを守るためにも、親自身が相談できたり、気持ちが楽になったりすることが大事だとわかった。」

ふりかえりのポイント！

① ふりかえりでは、ここまでの話し合いをふまえ、エピソードからはなれ自分の身近な事象として捉えて考えていきます。自分ならどう考え、何をするか、多様な考えがあることに気付いたり、自分の子育てを振り返ったりすることになります。

② テーマが「まもる」であると確認することで、テーマに沿った振り返りをしやすくなります。

③ 出された感想はどれも尊重し、場の大勢とは異なる少数意見が出されても否定しないようにし、特定の感想に集約させるなど、無理にまとめる必要はありません。

④ 参加者が日頃の思いや考えを話すことができたか、また講座をきっかけに気持ちがリフレッシュでき、子育てに前向きに取り組む気持ちになれたかを問いかけ、確認しましょう。

ふりかえりの言葉の例

たくさん意見が出てきましたね。子育てをしていると、子どもが言うことを聞かないような経験を、多くの人がしているようですね。皆さん悩みながら、毎日を過ごしていますね。共感される場面がたくさんありましたね。その中で出てきた、ほかの人がしていることがヒントになるかもしれませんね。

こんな時どうする！？　①

次のような意見になったとき、ファシリテーターとして、どのように話し合いをつないでいったらいいのかな？

【ケース１】参加者から、たたくことを肯定する意見ばかりが出るとき

「子どもは言葉だけでは聞かない。たたくこともしつけのひとつ。」
「たたくことイコール虐待ではない。おしりペンペン程度のことは昔からあたり前にあるから。」

「たたかれたときに、子どもはどう思っているのでしょうね。」
「自分が子どもだったら、どんなふうに思いますか？」
「『親が伝えたいこと』を言葉で伝えてうまくいったことは、何かないですか？」

【ケース２】参加者からたたくことを肯定する意見と、否定する意見が対立するとき

「いけないことを許したら自分勝手な子になってしまう。少しくらいたたいても、虐待ではないと思う。」
「言っても分からなかったら、痛い思いをすることは必要。言うだけでは、聞かないことがある。」

「たたかれるからやらなくなるだけで、なぜやってはいけないかを考えることにならない。」
「厳しく叱る前に、なぜこんなことをしたのかをわかることが重要。」

「違う意見については、どう思いますか？」
「子どもが納得するときは、どんな時ですか？」

【ケース３】たたくことはよくない、虐待になるかもしれないとわかりながら、いい方法がわからず、たたいたり、きつく怒ったりしてしまっているという意見ばかりのとき

「まずは、子どもの話をしっかりと聞いてやるべき。でも、周りに人がいると、その人たちへの気兼ねもあり、その場は厳しく叱るしかないときがある。」
「つい、きつく叱ってしまう。子どもが泣いていたら、近所の人に虐待って思われるんじゃないかと思う。」

「親の気持ちもつらいですね。」
「何か別の方法で、子どもに伝わったことは、何かないですか？」
「どうすればいいか、みんなで方法を出し合ってみませんか。」

こんな時どうする！？　②

参加者の意見を「尊重」して進めていたのだけど、こんな状況になったら、どうしたらいいのかしら！？

◆　「虐待としつけって、どうちがうの？どこまでがしつけで、どこまでしたら虐待になるの？」という質問があった。また、どこまでが虐待かという議論ばかりになってしまう。

虐待としつけの違い　（オレンジリボン運動公式サイトより）

「児童虐待の防止等に関する法律」により、子ども虐待の定義は、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待となりました。しかしこの定義が明らかになっても、なお、子ども虐待とはなんぞや、と考えさせられる場面があります。それは、虐待としつけの違いについてです。

虐待としつけ。この二者間には、しっかりと線引きできないグレイゾーンが存在します。が、多数の事例に関わってきた福祉、保健関係者や精神科医、小児科医などが言うように「子どもが耐え難い苦痛を感じることであれば、それは虐待である」と考えるべきだと思います。

保護者が子どものためだと考えていても、過剰な教育や厳しいしつけによって子どもの心や体の発達が阻害されるほどであれば、あくまで子どもの側に立って判断し、虐待と捉えるべきでしょう。

多くのケースでは、保護者が子育てに苦労されている現実がありますから、その気持ちを大事に考えることも大切です。

（参考）オレンジリボン運動公式サイト　http://www.orangeribbon.jp/

子どもが言うことを聞いてくれなかったり、思うようにいかなかったりということがありますね。子どもが言うことを聞かないことはつらいけど、自分の気持ちが伝わらないこともつらいですね。そんな時に、厳しく叱ったり、手を出したりすることもあるかもしれません。

でも、子どもにとっては、「たたかれる！」「こわい！」という思いだけが残って、親がこうしてほしいと思う気持ちや、困っている気持ちには気づかないかもしれません。子どもに恐怖心を与えたり、傷つけたりしたいわけではありませんよね。

子どもが困った行動をした時に、しつけとしてしたことを、「親の伝えたいことが伝わっているか」「子どもが耐え難い苦痛を感じなかったか」というような視点で、皆さんの意見も参考に、見直してみてください。

悩んでいることは、それだけ子どものことを真剣に考えているということ。大切なのは、子育てを一人で抱え込まないことだと、今日の話し合いをとおして気づかされましたね。